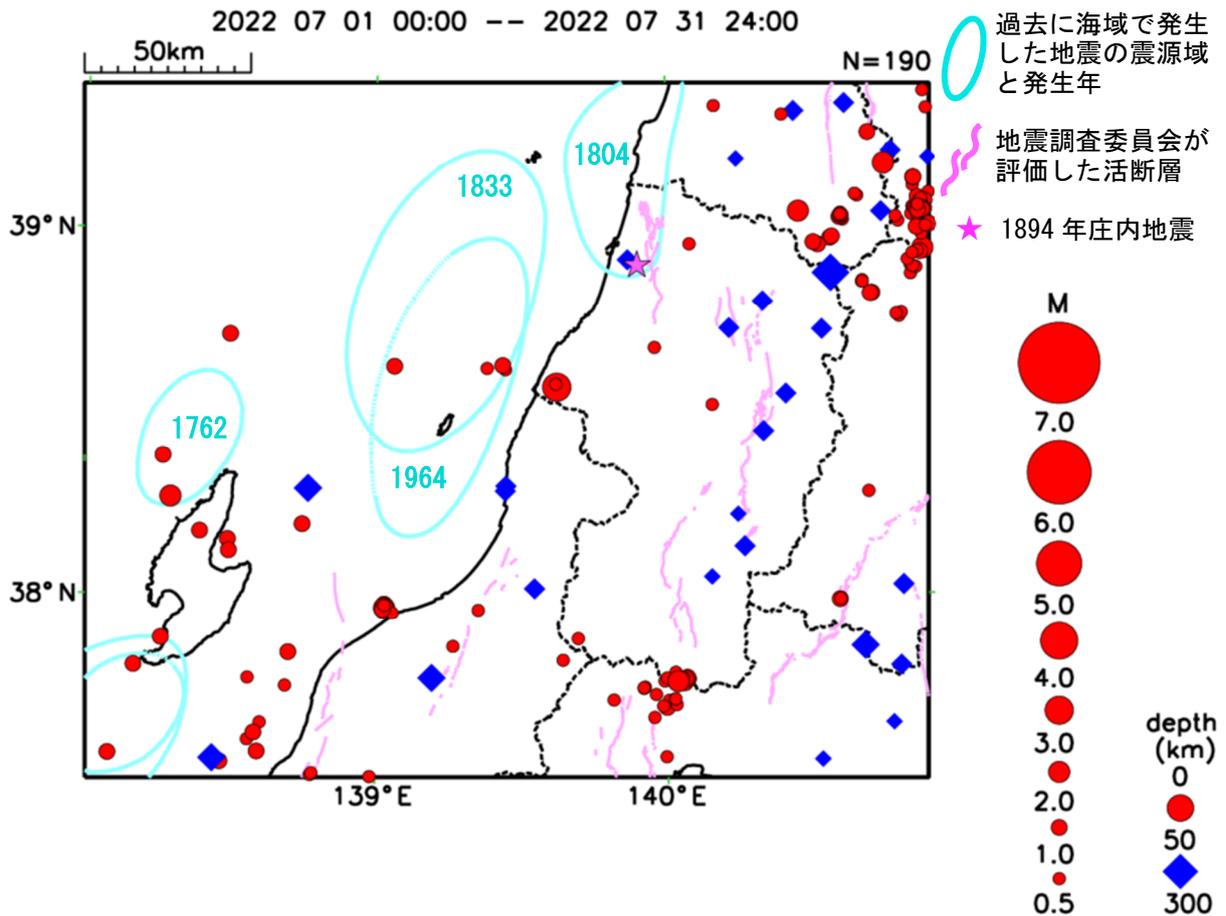


山形県月間地震概況 (2022年7月)

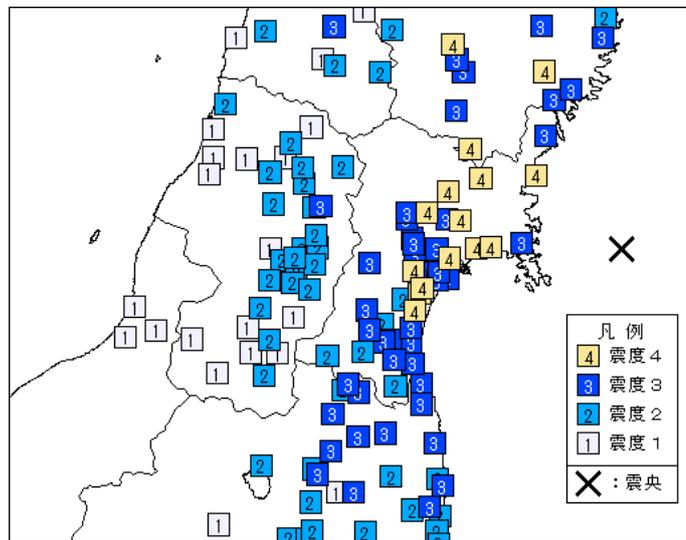
山形地方気象台



【概況】

この期間、山形県とその周辺(上図の範囲内)で観測した地震は190回であった。また期間中に県内で震度1以上を観測した地震は7回(前期間5回)であった。

6日5時10分に宮城県沖の深さ63kmでM5.4の地震が発生し、岩手県北上市、住田町、宮城県仙台市、名取市などで震度4を観測したほか、東北地方と関東地方及び新潟県で震度3~1を観測した。県内では、尾花沢市で震度3を観測したほか、広い範囲で震度2~1を観測した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。



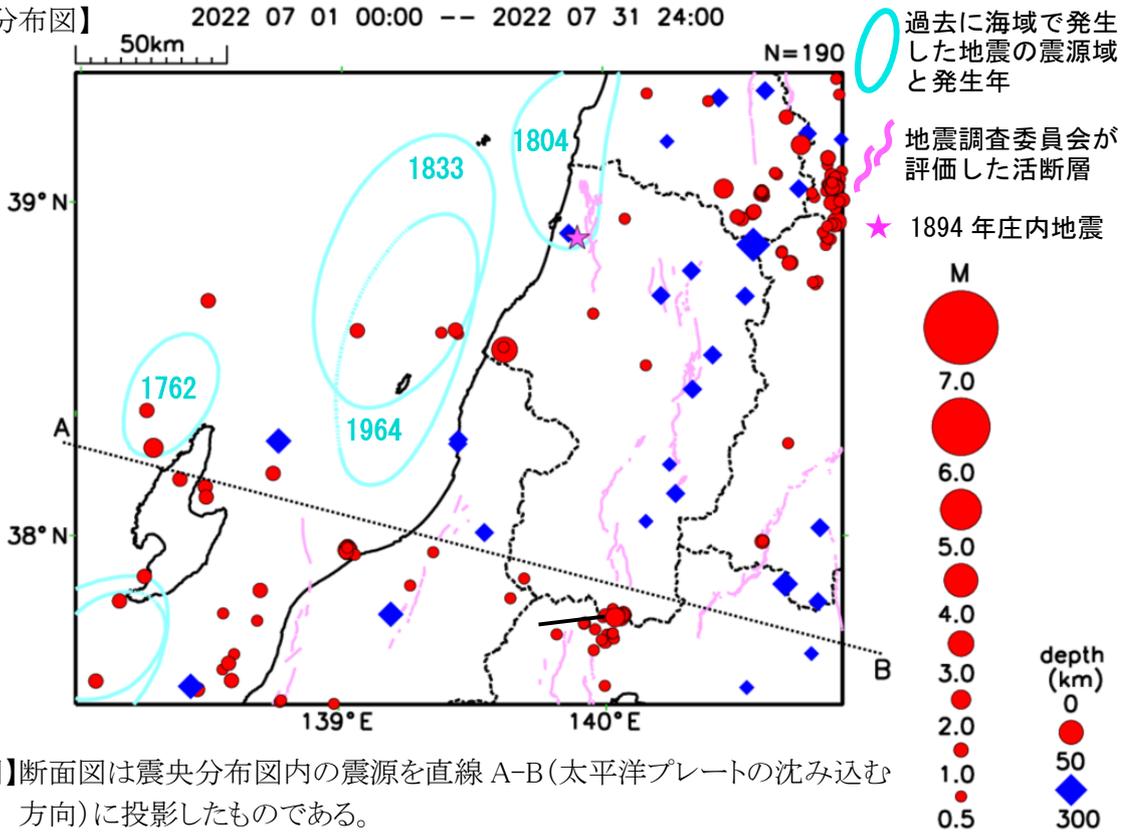
6日5時10分に宮城県沖で発生した地震(M5.4)の震央(X)と市町村別震度

※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「M」として表記している。

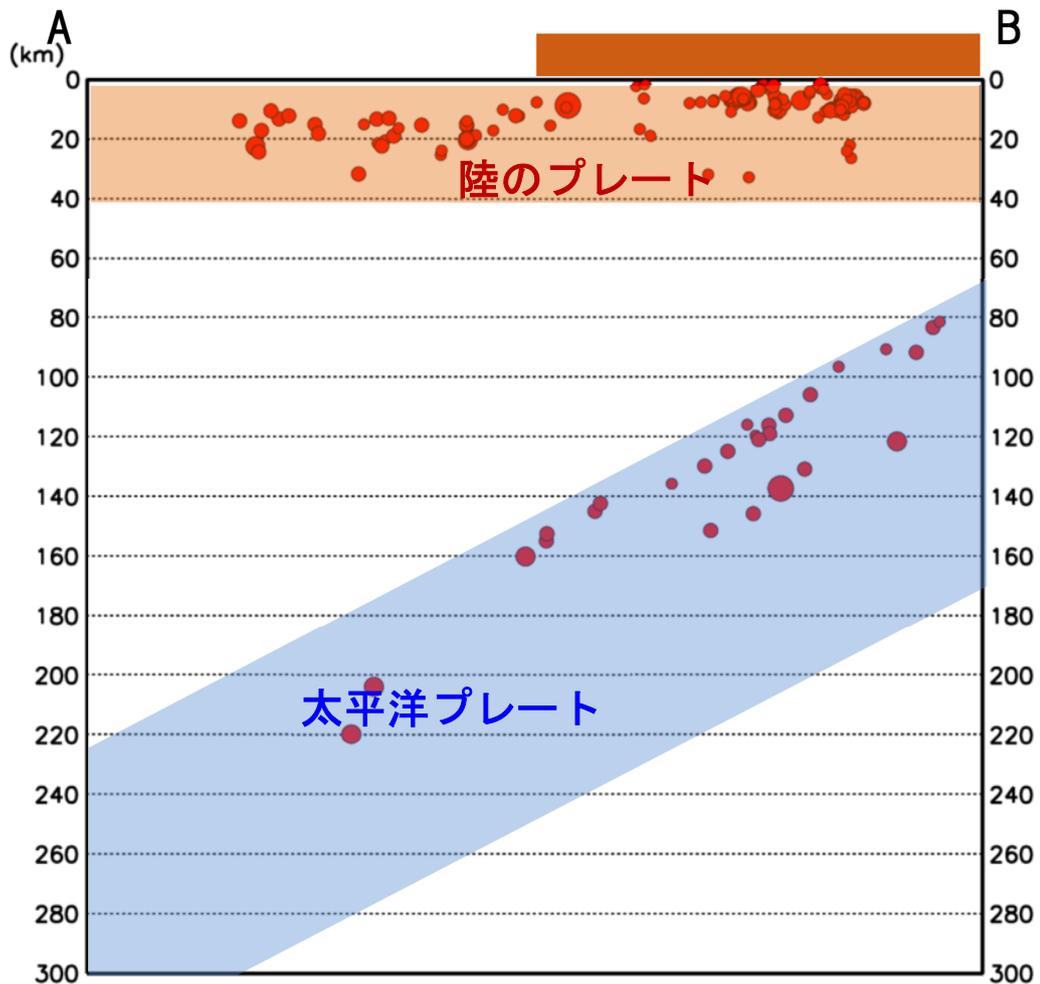
※山形県の各地の震度の詳細は、別紙「山形県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。なお震源要素等は、再調査により変更することがある。

【震央分布図】

2022 07 01 00:00 -- 2022 07 31 24:00



【断面図】断面図は震央分布図内の震源を直線 A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

山形県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2022年7月1日～2022年7月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2022年07月02日10時59分	宗谷海峡	45° 49.1' N	142° 13.6' E	324km	M5.9
山形県	震度 1 : 戸沢村古口*				
2022年07月06日05時10分	宮城県沖	38° 24.7' N	141° 57.2' E	63km	M5.4
山形県	震度 3 : 尾花沢市若葉町*				
	震度 2 : 遊佐町遊佐 新庄市東谷地田町 新庄市住吉町* 最上町向町* 舟形町舟形*				
	真室川町新町* 大蔵村肘折* 大蔵村清水* 戸沢村古口* 山形市薬師町*				
	寒河江市西根* 寒河江市中央* 村山市中央* 天童市老野森* 東根市中央*				
	山辺町緑ヶ丘* 中山町長崎* 河北町谷地 河北町役場* 山形朝日町宮宿*				
	大江町左沢* 大石町緑町* 米沢市駅前 米沢市アルカディア 米沢市林泉寺*				
	米沢市金池* 南陽市三間通* 白鷹町荒砥*				
	震度 1 : 鶴岡市馬場町 鶴岡市温海川 鶴岡市道田町* 鶴岡市藤島* 鶴岡市上山添*				
	鶴岡市羽黒町* 酒田市亀ヶ崎 酒田市宮野浦* 酒田市飛鳥* 酒田市山田*				
	酒田市観音寺* 酒田市本町* 三川町横山* 遊佐町舞鶴* 庄内町清川*				
	庄内町余目* 新庄市堀端町* 山形金山町中田 山形金山町金山* 鮭川村佐渡*				
	山形市緑町 山形市旅籠町* 上山市河崎* 西川町海味* 長井市本町*				
	高島町高島* 山形川西町上小松* 山形小国町岩井沢 山形小国町小国小坂町*				
	白鷹町黒鴨 飯豊町上原* 飯豊町椿*				
2022年07月09日10時12分	福島県沖	37° 09.3' N	141° 19.3' E	11km	M4.6
山形県	震度 1 : 上山市河崎* 山辺町緑ヶ丘* 中山町長崎* 米沢市駅前 米沢市アルカディア				
	米沢市林泉寺* 米沢市金池* 南陽市三間通* 高島町高島* 山形川西町上小松*				
	白鷹町荒砥*				
2022年07月21日08時50分	福島県沖	37° 33.9' N	141° 56.5' E	41km	M4.6
山形県	震度 1 : 米沢市アルカディア				
2022年07月21日18時44分	福島県沖	37° 30.4' N	141° 32.5' E	47km	M4.8
山形県	震度 1 : 中山町長崎* 米沢市アルカディア 米沢市林泉寺* 高島町高島*				
2022年07月22日12時01分	青森県三八上北地方	40° 33.0' N	141° 25.0' E	86km	M5.3
山形県	震度 1 : 鶴岡市藤島* 村山市中央* 中山町長崎*				
2022年07月30日18時58分	山形県庄内地方	38° 33.9' N	139° 37.3' E	9km	M3.2
山形県	震度 1 : 鶴岡市温海川 鶴岡市温海*				

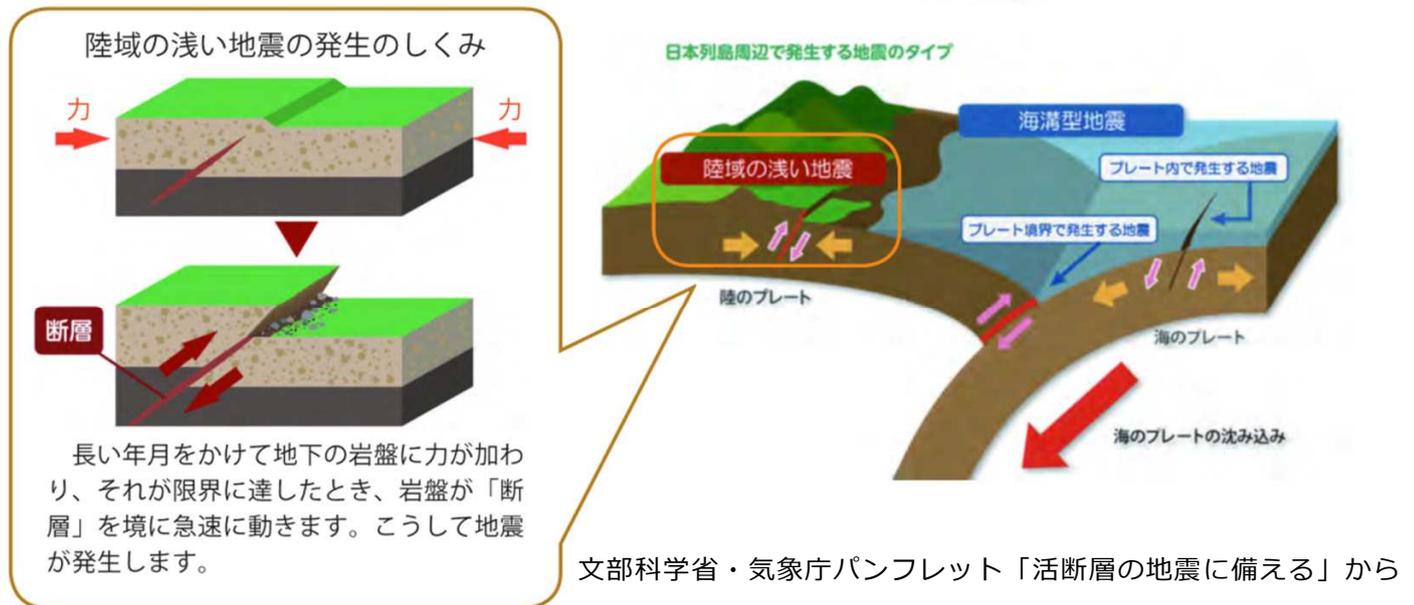
(注) 地震の震源要素等は、再調査により変更することがある。

各地の震度は山形県のみを示し、*は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

陸域の浅い地震

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかりあっており、岩盤の中に大きなひずみが蓄えられています。そのため、海のプレート境界やプレート内のほか、陸域の浅い所（深さ約 20km より浅い所）でも多くの地震が発生します。これを「陸域の浅い地震」と呼びます。



過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と言います。日本の周辺には約 2,000 もの活断層があり、それ以外にもまだ見つからない活断層が多数あると言われています。

活断層は、地震の規模がある程度大きくなければ、地表に断層のずれが現れません。また、断層のずれが地表に現れていた場合でも、その後の浸食や土壌の堆積により痕跡が不明瞭になることがあります。このため、活断層が確認されていない場所でも、被害をもたらすような地震は起きることがあります。

甚大な被害が発生した、平成 7 年（1995 年）兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）や、平成 28 年（2016 年）熊本地震も、活断層の動きによって発生した地震です。

陸域の浅い地震への事前の備え

陸域の浅い地震では、プレート境界で発生する地震に比べると規模が小さい地震が多いですが、地震の発生する場所が浅く、人が住む地域に近いため、住居やライフライン等に甚大な被害が発生することがあります。

また、震源に近い地域では緊急地震速報が間に合わないことがあるため、突然の揺れに十分に身構えることが難しい場合を想定した事前の備えを行きましょう。

陸域の浅い地震だけでなく地震全般への備えとしては、建物の耐震補強、家具の固定、水や食料等の備蓄、避難場所や家族との連絡方法の確認、自宅や学校・職場など、普段の自分の行動範囲を考えながら、どのような危険が起こりうるか考えて備えることが大切です。家族と相談しながら備えを進めましょう。